



「間違いないよ。お前は、折檻が好きなんだ。それでな、こんな長くはやがていられない。」  
「それで、好きです。」

8 山寺  
映画(3月のライオン 後編)

題タイトル欄に読む山寺(柳木隆之介)が、青々の父・幸田近江(豊川悦司)に見守られながら読物をしつらしたとある台詞。山寺の階段(幸田近江から仁王門)や竹藪記念館のシーンでは静寂のクライマックスを認める。

「ようやく本目だな」  
「ああ、そうだな」



6 文相館・議場ホール  
映画(しゃべれど)

西川町で地域医療に身をささげた実在の医師・志田周子(平山あや)。保健分野の最高賞といわれる「保健文化賞」を東北で初めて受賞した場面。周子が壇上で語った一節。

「私の夢は、何人も等しく、医者にかかれる世の中が来ることです。なせなら命だけは平等だと思っからです。」



5 文相館・中庭  
映画(コロンブス 麒麟の舌の記憶)

料理に没頭するあまり、身重の妻・千鶴(宮崎あかり)を置いて立ち去ってしまう料理人・山形源太郎(西島秀俊)について語る、鈴木料理長(竹橋康成)と千鶴のシーン。

「しょうがないなあ、最近の山形さんは、何かを成し遂げるためには何かを犠牲にしなければならぬんです。私はそう思います。」



4 文相館・内務部長室  
ドラマ(関ヶ原)

映画も公開され話題美談の人氣を決定付けた学園ドラマ。舞台となる百花王学園の設定で文相館が毎日登場。早乙女芽蓮(春川芽衣)とギャンブル対決をする地味夢子(浜田)が、リスクが確率はど同様に、身悶えしながら叫ぶ鳥肌モノの名セリフはここで誕生した。



「いいわ、やってやる!」「一千万の勝負!」「ウフフフフッ!」「ワタシ、ゾクゾクして、燃つてしまします」「さア、さア、さア、聞け狂いましょう!」

1 土坂の西園王放牧場  
映画(山羊 Loves)

冬道で立ち往生した軽トラックの前で、主人公の佐藤寛一(東田和伸)と幼馴染である悠二(吉村和希)が、助産師をめぐって問答するシーン。寛一役の東田は「エレファントのシマシマ」のファンを公言しているせいか、台詞が妙にリアル。



「コレ、貸せよう!」「ダメ、ダメ!」「エレカシのライブさ着てったヤツだから」「エレカシ?」

やまがた

YAMAGATA LOCATION TOURISM

2 文相館・知事室  
映画(ふるりに剣心 京都大火編)

将才剣心(佐藤健)が内務卿の大久保利通(宮沢和史)に呼び出され、維新政府の転機を議論して暗躍する人斬り本郷(斎藤工)と佐藤(佐藤健)を討つよう依頼されるシーン。

「もはや頼みの綱は、お前しかいない」「大久保さん、随分やつれましたね」「古い時代を壊すことよりも、新時代を築くほうが遥かに難しい!」



3 山崎倉庫  
映画(おしん)

鶴山温泉に働きに出ている舟越ふじ(上戸彩)とおしん(濱田ここむ)の再会は、小林綾子が主演したドラマと同様、舟越の絆を感じる重要なシーン。2013年公開の後編版では、ナヤキ並木製の本陣屋敷を背景に撮影された。



「おしん、母ちゃんじだんごがあったも、おしんや父ちゃんに顔を合わせられんことばしてねえがらな、ほんてんしてねえがらな」「しんばいすっどいげねえがらな!」「母ちゃん!」「おしん、帰えれ!」

ロケツトリズム

映画のなかに登場する山形の存在感について  
山形県民なら誰もが一度は訪れたことのある景勝地や温泉地、観光スポット、またはいつもの街角。そんな見慣れた風景は、その故郷がテレビやスクリーンを通して観ると途端に誇らしく感じるのなかなせぬ。創作された物語のなかに溶け込み、改めてその美しさや無二の存在感に気づかされるからだろうか。全国的にも映画鑑賞に恵まれた環境です  
「映画を見るなら山形県!」いまから少し前、昭和の後半にそう言われた時代があったとか。

9 鶴山温泉所  
ドラマ(おのの)

2011年1~3月にTBSで放送。雪の舞う鶴山温泉所を歩く石川萌奈美(今井美樹)。その神々しい舞姿に見惚れるように行む舞臺社(原田龍男)。第一話冒頭のシーンで萌奈美が語ったセリフ。



「あなたは優しい人でした。一日一日を大切に生きていた人でした。あの日、私があの日に向かったのは、真冬に咲く桜があるという話に心惹かれたから。」

10 霞城公園 寛大干門  
映画(新選組 参勤交代)

金に目が眩んだ幕府老中・松平信俊(陣内孝則)と、加増越後の参勤交代に赴く小藩主・内藤政勝(佐々木康之介)の間答は、現代の政治も風刺しているようにも。

じつは現在も山形県は人口10万人あたりのスクリーン数が全国で2番目に多い。全国平均が2.84なのに対し、山形県は5.19と、映画を観る環境は申し分ないようだ。多くの山形県民にとって映画は身近な娯楽。愉しみのひとつとして定着している。ならば今回は、映画またはドラマの世界に描かれた山形の姿、ロケ地を訪ね歩き、とっつきその世界に浸ってもらおうという特集を企画してみた。ロケツトリズムで銀幕の山形を確かめて

好きな作品のロケ地を、巡礼と呼び訪ね歩くファンも多いと聞くが、休日の外出のテーマに本特集を活用いただけたら本望だ。ぜひ同じシチュエーションで映演シーンを思い出して、できれば登場人物になり切つてここに掲載したセリフを放つてみてほしい。そんな風に作品の世界に飛び込ませる想像力の喚起こそ、本や映画が持つ魅力でありチカラでもある。映画と旅の縁を紡ぐ感覚で、銀幕の山形を確かめてみては。

「この田舎待め!」「いかに田舎待に!」「この不始末、こぞ中がどのやうにケリをつけられるが、田舎者にもハッキリとわかるやうにお教えたさいませ!」



世界が認めた映画の街から、  
山形の魅力が広がります。

ロケーション撮影を支える  
緑の下の力持ち

山形をロケ地に選定したおもな映画10作品を挙げたが、じつはこれらのロケ撮影が山形で実現している背景には、地元の人々による尽力が大きく関わっている。映画のほかテレビドラマ、CMといった映像作品のロケーションが円滑に行われるためのサポートを行うフィルムコミッションという公的機関。山形市では観光振興、地域の活性化を目的として、2005年に山形フィルム・コミッションが設立された。当時から舵を取る山川渉さんは設立にあたり半年前から準備を重ねたという。「それまで映画は人並みに頼るくらいでした。映像制作の視点で、どのようなロケ地があるのかと映画を食い入るようになって、研究して



運動会により、年間平均2006の制作チームが訪れる。天童市や山形市など山形市近郊の5市2町も参加。

いざ看板を掲げると、予想外に制作者からの問い合わせがぐありました」

映画の街へ  
歩みを進める山形市

フィルムコミッションの活動は、山形市を映画都市として位置付けていくための大切な役割を担っている。なかでも、文学や食文化といった7つの分野から特色のある都市を世界規模で認定しているユネスコにおいて、

1 越年 Lovers

日本・台湾・オーストラリアの年輪と風景を舞台に不器用な3組が繰り出すラブストーリー。買手の子の短編小説集に感銘を受けた台湾のグロ・チエンディが監督・脚本を務めた映画化した。日本パートは山形県で撮影。

●製作: 阿部マサ子 ●監督: フォクシアニア ●脚本: フォクシアニア ●出演: 高田穂波、橋本マナカ、マリア・インコウ ●2019年製作/2021年公開/118分/台湾・日本合作 ●配給: デアリーストース

3 おしん

1983-84年にNHK連続テレビ小説として放送された大人気ドラマ「おしん」を映画化。舞台となる山形県でオールロケを敢行し、監督も同居出身。エキストラとして古村山形海知恵が台詞ありで出演している。

●製作: 映画制作 ●監督: 宮本昌彦 ●脚本: 山形大 ●出演: 宮本昌彦、上戸彩、高田穂波、高橋ユキ、小柳舞子、相澤舞 ●2013年製作/公開/109分/日本 ●配給: 東映

6 いしゃ先生

戦前戦後の混乱期に、無医村だった山形郡大井沢村(現・西田町大井沢)で生涯を医療に捧げた、実在の女性医師・志田真子の人生を映画化。山形出身の白崎映美が脚本・その2人も出演。

●製作: 映美 ●監督: 長江正和 ●脚本: 映美 ●出演: 志田真子、松本明子、上野樹里、高田穂波 ●2015年製作/2016年公開/105分/日本 ●配給: キョクセン

10 超高速! 参勤交代

時は参勤交代屋敷・徳川吉家時代。江戸幕府から気運を突き付けられた超小藩の藩主に、佐々木蔵之助が扮する時代劇コメディ。息をのむ重要なシーンの舞台で蔵城公園・東大手門が設定された。

●監督: 本木克彦 ●脚本: 土橋成文 ●原作: 大友政 ●企画: 藤原道生 ●出演: 佐々木蔵之助、深田恭子、伊藤忠信、有馬友之 ●2014年製作/公開/119分/日本 ●配給: 松竹

2 ろうに剣心 京都大火篇

和月伸宏の人気コミックを実写映画化した「ろうに剣心」(2012年)の続編で、影の人物に役となった斎藤・あやの演劇実家が監修。内陣の設定となった立派なおしん、料亭千歳館での撮影したシーンも必見。

●製作: 松竹映画 ●監督: 大友政 ●脚本: 藤原道生、大友政 ●出演: 斎藤工、斎藤あや、高田穂波 ●2014年製作/公開/120分/日本 ●配給: ワーナーブラザーズ映画

5 ラストレシビ 麒麟の舌の記憶

一度食べればどんな味でも再現できる「麒麟の舌」をもちながら料理への情熱を失ってしまった料理人が主人公。歴史の闇に消えてしまった幻のレシピを探る過程で、思いがけない真実が明らかになるさまを描く。

●製作: 映美 ●監督: 渡辺謙二 ●脚本: 映美 ●出演: 二階堂ふみ、西島秀孝、渡辺謙、安藤さくら、酒井大智、竹野内豊 ●2017年製作/公開/126分/日本 ●配給: 東宝

9 冬のサクラ

白銀の世界で出会った男女の純愛劇。山形育ちのガラス職人として帰郷する男性が、「冬に咲くサクラ」を探す旅の途中で事故に遭い記憶を失った主婦と恋に落ちる物語。景観な富神山の風景が印象的。

●企画: 石丸利一 ●原作: 戸川幸夫 ●脚本: 藤原道生 ●プロデューサー: 藤原道生 ●製作: TBS ●出演: 深田恭子、今井美樹、佐藤健、高橋海聖 ●2011年製作/公開/108分/日本 ●配給: 松竹

4 越ケグルイ

越前守の強さで話題が決まる学園を舞台に、秀才の美少女と生徒会が学園のリスクバトルを繰り広げる学園ギャング・ドラマ。シーズン1では、立派な衣装と外観や室内など多くのスポットが映し出されている。

●製作: 河津秋武、西村謙一 ●監督: 長瀬喜伴内 ●脚本: 長瀬喜伴内 ●出演: 高田穂波、高田穂波、高田穂波、高田穂波 ●2018年製作/全10話/日本/VOD

8 3月のライオン 後編

羽海野チカの大ヒットコミックを実写映画化。若きプロ棋士・桐山零の闘いや、零を取り巻く人々のドラマを描いた2部作の後編で、「ろうに剣心」の大友政史監督と神木隆之介が主演でタッグを組んだ。

●製作: 羽海野チカ ●監督: 大友政 ●脚本: 羽海野チカ、渡辺謙二 ●出演: 神木隆之介、高田穂波、高田穂波 ●2017年製作/公開/139分/日本 ●配給: 東宝、アスミック・エース

7 小川の辺

鎌倉時代の短編小説を映画化した時代劇。鎌倉で美術が衰えた佐々木蔵之助が美輪の姿を求めて旅する。同じく蔵之助の「山椒」で監督とタッグを組んだ東山紀之が主演。

●製作: 蔵之助 ●監督: 東山紀之 ●脚本: 長瀬喜伴内、東山紀之 ●出演: 東山紀之、高田穂波、高田穂波 ●2011年製作/公開/103分/日本 ●配給: 東映

山形がロケ地に  
選ばれ続ける理由とは。

ロケの誘致・支援を行う「山形フィルム・コミッション」が、作品を支える緑の下の力持ちに訊きました。



映画「ろうに剣心 京都大火篇」では内陣の設定で文相館で撮影が行われた。エキストラは約100名にも上る。



映画「超高速!参勤交代」に参加したエキストラの皆さん。クライマックスの舞台となった蔵城公園・東大手門の噴門で。

**山** 形フィルム・コミッションは、ロケ地の情報提供やロケハンへの同行など誘致・支援活動がおもな仕事。コロナ禍によってロケの本数は減っているが、それでも山川さんはロケ地のリサーチを欠かさない。観光地だけでなく、日常的な街の風景、道路や橋などを四季の変化も意識しつつチラチラするという。問い合わせが来た時のレスポンスをいかに早く行えるかが、実際に来てもらえるかを左右する鍵とらって



撮影に立会う際には、トラブルの有無や撮影許可条件が守られているかなどを確認。

WORK



映画「3月のライオン 後編」では、主演山立石杏の参道や参道非公開の山寺行啓記念館で後陣を輝かせるクライマックスシーンを撮影。



タイドラマ「ダンドウアンハルタイ」は、優雅な物語の世界観に合わせて文相館で撮影。



女子高演劇部を舞台にした映画「櫻の園」は、桜が咲き誇る蔵城公園でも撮影された。



1946年のサンフランシスコという設定で撮影された文相館には500名ものエキストラが集まった。ドラマ「99年の愛〜JAPANESE AMERICANS〜」。

PLAN

**豊** かな自然などの土地が持つポテンシャルに加え、山川さんのような人々の熱意こそ、山形が選ばれ続ける理由ではないだろうか。山川さんは「山形の魅力を国内外へ発信することはもちろん、地元の人にも山形を誇りに思ってもらうさ

あらゆる土地を網羅。選ばれる理由がここに。

つかけに「なれば」と話す。そんな強い想いを携えて、スクリーン裏の尽力者は今日も山形を巡り歩く。



山形市文化振興課 創造都市推進係長 山形フィルム・コミッション 代表 山川 渉さん

**活動と実績**

映画をはじめドラマ・CM・テレビ番組などあらゆる映像作品のロケーションを誘致・支援。エキストラ募集や撮影立会も行。

「ヘヴンズストーリー」(2010) ●「小川の辺」(2011) ●「ろうに剣心 京都大火篇」(2012) ●「超高速!参勤交代」(2014) ●「ラストレシビ」(2017) ●「3月のライオン 後編」(2017) など

山形フィルム・コミッション  
山形県山形市錦町2-3-25  
山形市文化振興課内(事務局) fc-yamagata.jp

見慣れた街角から有名観光地まで山形のあちこちが意外な舞台に。

まさかの珍設定も？  
国内外の作品に県内各所が  
数々登場しています。

月山を望む  
山形ロケの聖地

山形のロケ地を語るうえで欠かせないのが鶴岡市にあるスタジオオセアニック庄内オープンセット。35万4000坪、東京ドーム約20個分という広大な土地に農村や宿場町といった趣の異なるセットが建てられ、時代劇を中心にさまざまな映画やドラマが撮影されてきた。オープンセットの始まりは、2007年公開の映画「スキヤキウエスタンジャンゴ」の舞台となる宿場町のセットを建設したのが発端だ。当時はクランクインと同時に一般



庄内オープンセットでは「おひびと」で登場し移築された民家のセットや「サムライラン」で建てられた物見櫓なども見学できる。

文翔館が  
異国の  
宮殿に！



ROMANCE

ダンドウアンハルタイ

(ティン・アツェン・ダボン、キミー・キムリー出演/2020年ドラマタイ)

2度もドラマ化されている人気ラブロマンス作品で、タイのトップ俳優らが出演。文翔館のほか旧清生園本館や蔵王など県内各地がファンタジックな世界観で登場。

ここで観られます

[Ch3Theilandチャンネル] [https://youtu.be/P-E\\_98kVOCo](https://youtu.be/P-E_98kVOCo)

SUSPENSE

コンプリシティ-優しい共犯-

(近藤啓敏監督/ルー・ユライ、藤島由出演/2018年映画・日中合作)

研修先から逃亡した不法滞在者となった中国人青年が、他人になりすまして大石田町の蕎麦店で働く物語。時に住む国家の差別と青年が花火を観るシーンなど山形でありながら「アジア映画」の空気感が随所に。蕎麦店が演じる不器用な蕎麦屋店主と青年の親子のような温かい絆を描く。



※撮影の経緯や詳細の都合により、イラストで再現しています。

大石田の  
花火が映す  
人間模様

遙か海を超えて届いた、  
山形が持つ土地のポテンシャル。

イルムコミッションの活動やオープンセットの存在によって、ロケ地としてのブランド力を高めている山形では、海外作品も撮影されている。タイの人気ドラマ「ダンドウアンハルタイ」は山形県タイ友好協会設立の足がかりとして山形フィルムコミッション

フ

イルムコミッションの活動やオープンセットの存在によって、ロケ地としてのブランド力を高めている山形では、海外作品も撮影されている。タイの人気ドラマ「ダンドウアンハルタイ」は山形県タイ友好協会設立の足がかりとして山形フィルムコミッション

「ダンドウアンハルタイ」では鶴の谷地蔵や蔵王温泉大滝天宮、幻想の森など山形の大自然を活かした撮影に。



全

WORLD

全国各地のフィルムコミッションが海外作品のロケ誘致を加速させたのは、佐賀県の成功事例によるところが大きい。誘致した映画やドラマがタイ本土でヒットし、2015年にはタイ人宿泊観光客数は4680人を記録、前年比300%となる劇的な伸びを見た。観光アプリサービスを始めといった受入れ環境の整備も功を奏していたという。海外の誘致活動も難しい現状だが、ロケツアーズムはそのチームを一過性で捉えるのではなく、いかに継続して観光客を呼び込めるかがポイントでもある。

先住民が  
ラッパを吹く  
蔵王御釜



スキヤキウエスタンジャンゴ

(三池崇史監督/伊藤英明、佐藤浩市出演/2007年映画・日本)

徳ノ津の戦いから数百年後の徳兵衛平家の設定なのに西部劇。しかも全米映画祭の日本最「マカロウウエスタン」は、時代も様式も翻案した奇想天外な物語で庄内オープンセット誕生のきっかけになった作品。蔵王御釜を舞台にラッパを吹く先住民の情景三宮がハマリ役だ。

妖しげな  
大山桜は  
あの世の証



SOCIAL

ヘヴンズストーリー

(舞々原久監督/佐藤清孝、長谷川龍輝出演/2010年映画・日本)

平凡な日常に突如発生した殺人事件をきっかけに、捜査に絡み合う人間たちの復讐と人生を描く作品。物語のラストを飾る天宮の情景を蔵王天宮で撮影した。上映時間4時38分、第51回ベルリン国際映画祭で国際批評家連盟賞と最優秀アジア映画賞を受賞した傑作。

HORROR

山形スクリーム

(竹中直人監督/成海璃子、沢村一樹出演/2009年映画・日本)

「ガバガバい映画を作りたい」と一念発起した竹中監督のホラーコメディは「落ち武者の霊」といわれる御祭ヶ部村に伝説で訪れた悪霊女子高生らが、霧から舞った落ち武者と闘うハルヒの悪魔、湯野浜の旧旅館や、秋友の高校など庄内各地でゾンビが驚く笑撃のシーンが満載する。

WESTERN

スキヤキウエスタンジャンゴ

(三池崇史監督/伊藤英明、佐藤浩市出演/2007年映画・日本)

徳ノ津の戦いから数百年後の徳兵衛平家の設定なのに西部劇。しかも全米映画祭の日本最「マカロウウエスタン」は、時代も様式も翻案した奇想天外な物語で庄内オープンセット誕生のきっかけになった作品。蔵王御釜を舞台にラッパを吹く先住民の情景三宮がハマリ役だ。

湯野浜が  
ゾンビを  
小村に！



公開し、撮影風景も見学できたという。現在は冬季休業中だが、来年は当地撮影の映画公開も控えているそう。

さまざまな物語を彩る  
山形の景色

落武者が舞る山村や異国の城、はたまた天宮と、数々の作品に山形の景色は意外な形で登場する。そんなシーンを観ていると、見慣れた景色がスクリーンのなかでは異世界のように映し出されていることに感動を覚える。土地と作品により一層親しみが湧いていく。昔夜風に留めないような路地や野山などは、思っている以上に価値があるものなのかもしれない。ロケハンの気分を歩けば、いつもと違う山形の表情にきっと出会えることだろう。



よってけるろフェスタ

1 『東北絆まつり・庄内空港開港30周年飛行記念』を収めた『黒澤英介・松木友香里写真展』開催!

2 『ブルーインパルス 遠征隊長特別公演』お買い上げいただいた方、各日先着30名様! 『遠征隊長サイン入りポストカード』プレゼント!

Blue Impulse

よってけるろフェスタとは大風印刷が2日間限定で開催する「ポップアップ・ストア」です!

浪漫山形百景

- 2022年卓上カレンダー
- 原画複製画の受注販売
- ポストカード・一筆箋等

特典 ブルーインパルス・浪漫山形百景のグッズを2,000円以上お買い上げの方に先着で『マスクケース+オリジナルメモ帳』プレゼントがなくなり次第終了

12月18・19日  
10:00~16:00  
イオンモール山形南 1Fセンターコート

日曆にプラスする (株)大風印刷  
okaze.co.jp  
大風印刷

山形で40年以上、映画に携わる仕事を続けている荒井さん。その長いキャリアのなかで見えてきた山形所縁の映画人について語っていただきます。

# 山形と映画文化の関わり、詳しく知る人に訊きました。

憧れた映画の世界  
少年の好奇心そのままに

シネマバーソナリティ、映画解説者、映画イベントプロデューサーなど、山形を主軸に多面的な活躍で知られる荒井さん。「私が少年の頃は映画を観ることが大きな娯楽のひとつでした。新作が上映されたら映画館に足を運ぶ、それが当たり前だと思っていました」と話す。映画作品と接するデバイスや選択肢が増えたいまもなお、そのとき抱いた憧れは変わっていないという。「生来のミスター・氣質に突き動かされています。スクリーンで活躍している役者や監督に対する好奇心、尊敬の気持ちも大きい」と続ける。そんな思いの強さが荒井さんの源とな

ゲスト講師を務める山形の「C&Mエンジョイ倶楽部」では、上映会や劇団を学ぶ機会も好評。



り、蓄えた知識と経験を武器に、製作者、演者両方の心を開き交流を深めてきた。

所縁ある多くの作品から山形県民必見の映画は「映画は私にとって成長する糧。また時代性やシンクロしながら、人や街に刺激と癒しを与えて

映画は成長の糧。と上を向く  
頼もしき山形の映画伝道師。

## LEARN

くれる存在でもある」と荒井さん。このページでは後者が現地スタッフとして関わった作品のほか、役者として出演した作品、映画人とのエピソードを自身の解説で紹介。また、日本の映画最盛期に活躍した山形県出身の名優や、山形通のあの名優、そしてこれから注目を集めるであろう山形県出身の監督作品にも注目だ。



左) 2005年2月「村川通映画祭」で村川通監督、萩田春兵氏とトーク。右) 1998年5月「あぶない刑事 リターンズ」撮影時。



左) 高橋勲監督と山崎を語る。右) 家族ぐるみで観文があった田中邦衛氏とトーク。



田中邦衛さんはいつも山形通を心から楽しんでいました。

**STORY** 山形県出身の俳優が大活躍している作品  
台湾のグロウアップ監督「青年Lovers」では、幸田和伸(山崎町出身)、橋本マナス(山形市出身)がW主演。山形市や山崎町各地の屋内外でロケを敢行。

**STORY** 山形の名物が出てくる映画  
石井裕也監督の「おどろのダンディ」で、光石研と出口トモロウが唐名厨で奮闘。2人の中央に高木浩徳の「十四代」のスターカーが登場してあり目立ちます。

**STORY** 登場する山形の風景が印象的な作品  
篠原哲雄監督「小川の岬」で毒坂富士・成井が運命を受け、親友の長久間を討つために城を出立。スクリーンに映し出された雄峻公園東大門の巨艦が感動。



自ら上映で観ていた山形県民センター職員時代。

**STORY** スタッフからロケ地までオール山形の作品  
岸原三郎(米沢市出身)主演で1968年公開の映画「緑谷」が代表格でしょう。山形市街地から、米沢、上山、葉山上野など当時の懐かしい風景が登場します。

**STORY** 荒井さんの紹介で実現したロケ地  
1988年に知己を得た高橋勲監督から翌年に相談が「おもひでばるばる」山形編コーディネーターの依頼が、舞台となった高橋は実情が揃った身近な土地でした。



シネマバーソナリティ  
荒井幸博さん

山形を拠点にラジオ、テレビ、雑誌など多方面のメディアで、山形と映画の橋頭堡を築くためにシネマバーソナリティとして活躍中。フォーラム山形や、山形国際ドキュメンタリー映画祭の発祥地にも携わり、数々の映画人とも交流を深める映画人も数多い。

山形が映画の都と  
呼ばれる理由とは?

民から出資を募り建設した映画館「フォーラム」が1984年に創業してからは、アット系や過去の名作が中心のフォーラムと、大作・話題作中心に上映するシネマ旭等の宮崎シネマチェーンにより豊かな環境になった。1989年から隔年で山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催され、世界中から映画と映画人が集うようになり、東北芸術工科大学の開学等による、大学×映画館×映画祭の相乗効果も大きい。



第1回山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催前、山形市七日町で仮装パレード活動の様子。

山形のために  
尿力された映画人は?

沢が生んだ名優・伴淳三郎を忘れてはならない。映画が盛んな1950年代半ばから喜劇俳優として活躍し、日本映画全盛期の1958年に全編山形ロケの「顔役(松竹)」を誘致し主演。共演の佐田啓二、淡島千景、高千穂ひづる、沢村貞子、大木実など豪華俳優陣を引き連れてきてくれた。また、1971年には関根(現・高橋)恵子と篠田三郎主演の上山市ロケ「樹木悲歌」と庄内ロケ「成熱」(共に大映)を誘致し助演。ほかにもT.Vドラマ「誘致も数多い」。



多数のエキストラも参加し山形市街地を中心にロケを敢行した中村登監督の映画「顔役」のポスター。

いま注目したい  
山形所縁の映画人は?

**南** 陽市出身・芸工大卒で、2018年に映画「チア男子」(横浜流星主演)でデビューした監督・風間大樹(30歳)。そして、11月公開でヒットしている加賀まりこ主演映画「梅切らぬバカ」の脚本と監督を務めた酒田市出身の和島香太郎監督(38歳)に要注目。

「梅切らぬバカ」11月12日(金)より全国ロードショー。山形県内はフォーラム山形-東館ほかで上映。



撮影はシネマファンム・スタジオ 050011 撮影5分15秒/フィルム70mm

gatta!

Original Products



山形県産のほんわか米

大風印刷のガッタ米



数量限定販売、名水の里、山形市風間地区で育ったガッタ米、ぜひご賞味ください。

お買い求めはお早めに

moh'z

山形県山形市元木1-13-30

エンドー

山形県山形市長町2-1-33

大風印刷

ガッタハウス

山形県山形市あこや町

1-4-5 ☎023-631-5579

東だんご本舗ヨコホの「ガッタんご」は、好評につき完売いたしました。感謝申し上げます。